

子どもの事故を防ごう



安全・安心は家庭から！

出雲圏域小児の事故予防ネットワーク会議
出雲圏域健康長寿しまね推進会議(平成22年3月作成)
原案:小児の事故予防サポーター 福代五美

子どもはいたずらの天才です。

家の中は、子どもの好奇心をくすぐる場所が
いっぱいあります。

ちょっと目を離したすきに、誤飲、やけど、転落・転倒、それに水の事故も家の中で起こることが多く危険です。

「危ない!」と言っても乳幼児には理解できません。子どもの視点にたち、子どもがとりそうな行動を予測し、安全な環境づくりに努めましょう。(子どもの特性を知ろう!!)

○できるかぎり目を離さず、ひとりにしないことも忘れないでくださいね。

○安全、安心は家庭から、もう一度身の回りをチェックしてみましょう。

○事故が起き、意識がない等、様子が普段と違うときは、受診または119番通報をし、救急車を呼び、正しい応急手当を行いましょう。

転落・転倒

○からだに比べて頭が大きく重いので、重心の位置が高くなります。また、平衡感覚(バランス)が未発達なため転びやすいです。

○視野は大人に比べて狭いです。(5〜6歳では、大人の視野の1/2程度)

○転落がよくおきている場所

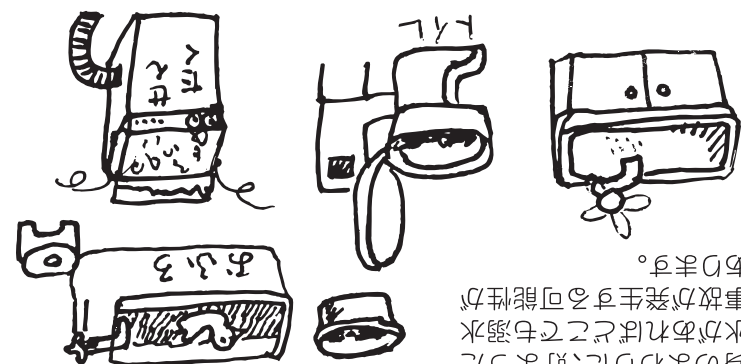
乳 児	ベビーベッド・クーハン(赤ちゃん用かご)・ハイチェア
1 歳 頃	階段・歩行器・ベビーカー・ショッピングカート
2〜3 歳	ブランコ・ジャングルジム・鉄棒 自転車荷台・二段ベッド・ベランダ

○ベビーベッドには転落防止柵を、階段や玄関にも柵をつけましょう。

○長い棒状のものを持たせて歩いたり、走ったりさせないようにしましょう。

○ベランダなどには、踏み台になるものは置かないようにしましょう。

★転落事故の危険度は成長するにつれて
どんどん高くなります! 要注意!



○乳幼児は水深が5〜10cmもあればおぼれてしまいます。風呂場には鍵をしたり、浴槽、洗面器の水は残さず捨て、洗濯機のまわりに足台となるようなものは置かないようにしましょう。

○身のまわりに、貯まった水があればどこでも溺水事故が発生する可能性があります。

水の事故

大きなチャェツク!!
直径39mmの輪(目安はトイレットペーパーの芯)を通るものは危険です。
注意して遊ばせるか、または、片付けましょう。



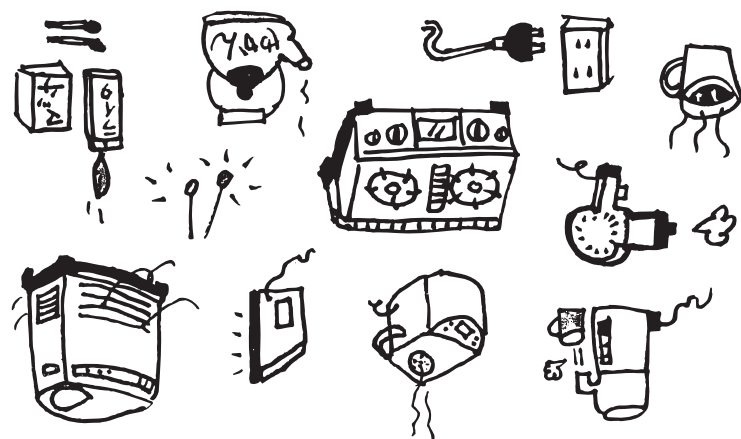
○生後5ヶ月を過ぎる頃になると、乳児は手にしたものを何でも口に入れるようになります。(ものを口で確かめる習性)

○手が届くところに口に入る大きさのものがあれば、誤飲が発生する可能性があります。遊ぶときは目が届くところで遊ばせ、そばを離れるときは手の届かない床から1m以上の高さのある場所へ置きましょう。

○誤飲し苦しがついていたら背中をたいて吐き出させます。(頭が下になるようにかかえます。)

<一助となります。整理、整頓に努めることが誤飲事故を防止するポイントです。

誤飲(窒息や中毒に注意)



○家庭内の熱いものは畳や床の上に置かず1m以上の高い所へ置くか、囲いをし、さわれないよう工夫しましょう。

○乳幼児の皮膚は大人に比べて薄く弱いため、低い温度や短い時間でもやけどとなってしまうことがあります。やけどに気づいたら、まず真上から水道水で冷やしましょう。(受診、救急車を呼んだ時は、震えが出たら冷やすのを止め毛布等で保温しながら受診または救急車を待ちましょう。)

やけど